

東川水系河川整備計画(変更素案)

(参考資料)

目次

第1章 河川整備計画の目標に関する事項.....	-1-	第2章 河川整備の実施に関する事項.....	-41-
第1節 流域及び河川の概要.....	-1-	第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川 管理施設の機能の概要.....	-41-
1. 流域の概要.....	-1-	1. 洪水対策.....	-41-
2. 流域の特性.....	-2-	2. 河川環境の整備と保全.....	-42-
3. 河川の特性.....	-13-	第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所.....	-44-
第2節 河川整備の現状と課題.....	-19-	1. 河川管理施設.....	-44-
1. 治水の現状と課題.....	-19-	2. 許可工作物.....	-44-
2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題.....	-22-	3. 河川空間の管理.....	-44-
第3節 流域の将来像.....	-25-	第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項.....	-46-
第4節 河川整備計画の目標.....	-31-	第1節 地域や関係機関との連携に関する事項.....	-46-
1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標.....	-31-	第2節 河川情報の提供に関する事項.....	-47-
2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標.....	-31-		
3. 河川環境の整備と保全に関する目標.....	-32-		
4. 河川整備計画の計画対象区間.....	-32-		
5. 河川整備計画の計画対象期間.....	-32-		
6. 本計画の適用.....	-32-		

平成28年11月

大阪府

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

1.流域の概要

東川水系は、大阪府最南端の大阪府泉南郡岷町に位置し、東川と西川の2河川からなる二級水系となっています。流域面積の約3%が下流低部の市街地および田畑、残る約97%は山地が占めており、大阪府の河川の中でも極めて自然環境に恵まれた流域となっています。東川水系の源は大阪府と和歌山県の境になる和泉山脈であり、各河川の源は、東川が東畑地区、西川が西畑地区より発しており、北方向に流下して河口より約300m上流の地点で合流し、東川として大阪湾に注いでいます。東川の流域面積は14.73km²、流路延長は6.5km（うち指定区間2.9km）、西川の流域面積は7.94km²、流路延長は6.9km（うち指定区間1.4km）となっています。

表-1.1 河川延長（管理区間）

水系名	河川名	指定区間延長	流域面積
東川	東川	2.9km	14.73km ²
	西川	1.4km	7.94km ²



図-1.1 東川水系流域位置図

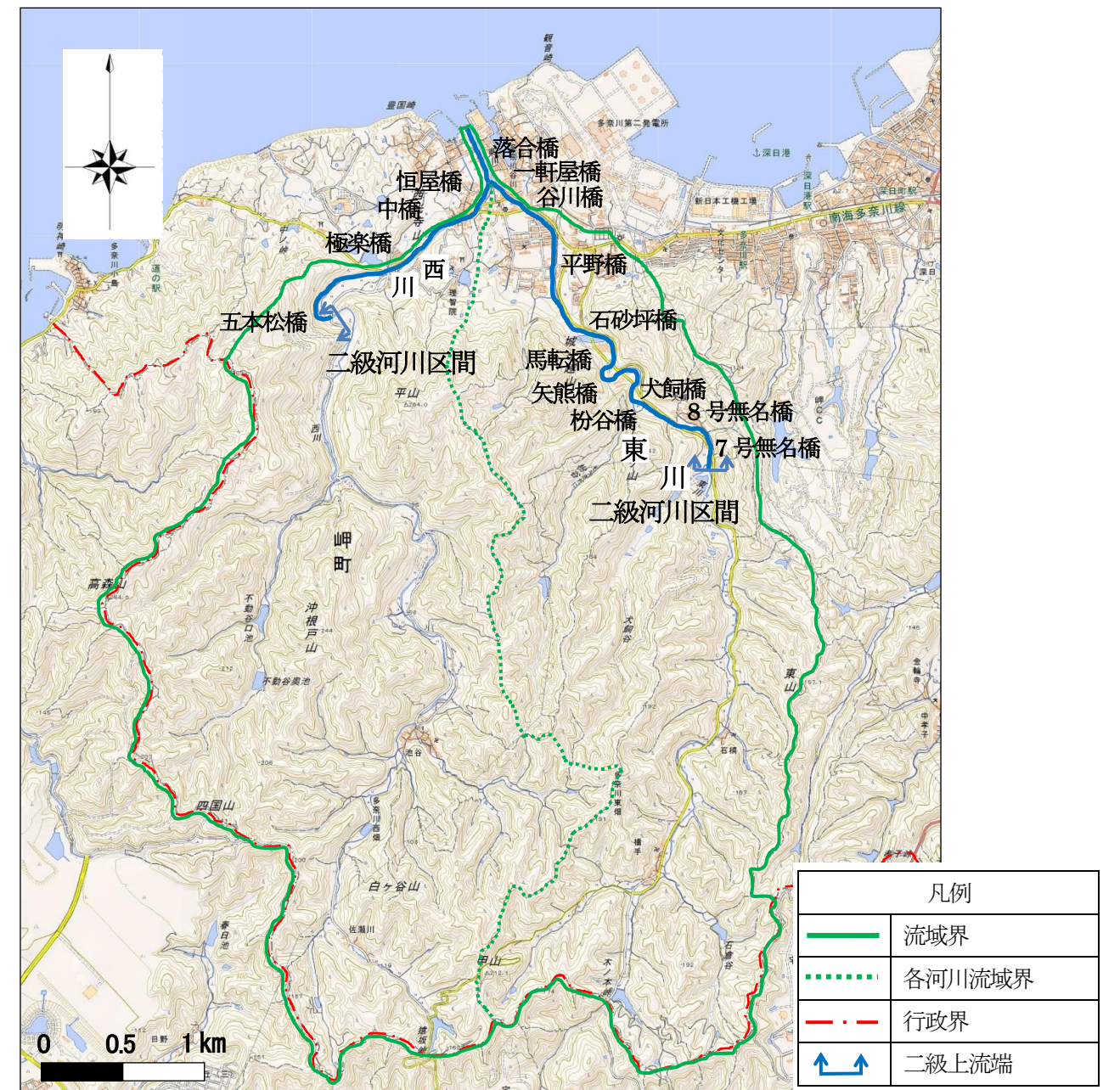


図-1.2 東川水系流域図

2.流域の特性

(1) 自然環境特性

1) 地形・地質

東川水系が位置する岬町は、山地あるいは丘陵が海岸にせまる地形で、町域の約80%を山林が占め、海岸部はみさき公園やピアッツァ5等の保養拠点となっていることが特徴です。

流域の地形は、下流域は市街地、中流域及び上流域はほぼ山林が占めています。流域内の標高は、下流域は1~10m、中流域が10~100m、上流域が100m程度となっています(図-1.3 参照)。

地質は、大部分が和泉層群¹⁾の砂岩泥岩互層からなり、未固結堆積物が河川沿いや北部の低地に見られます。和泉山地を流れる東川の幅100m~200mの狭い谷底平地には、河川流によりもたらされた砂と崖錘^{がいたい}による礫が堆積しています(図-1.4 参照)。

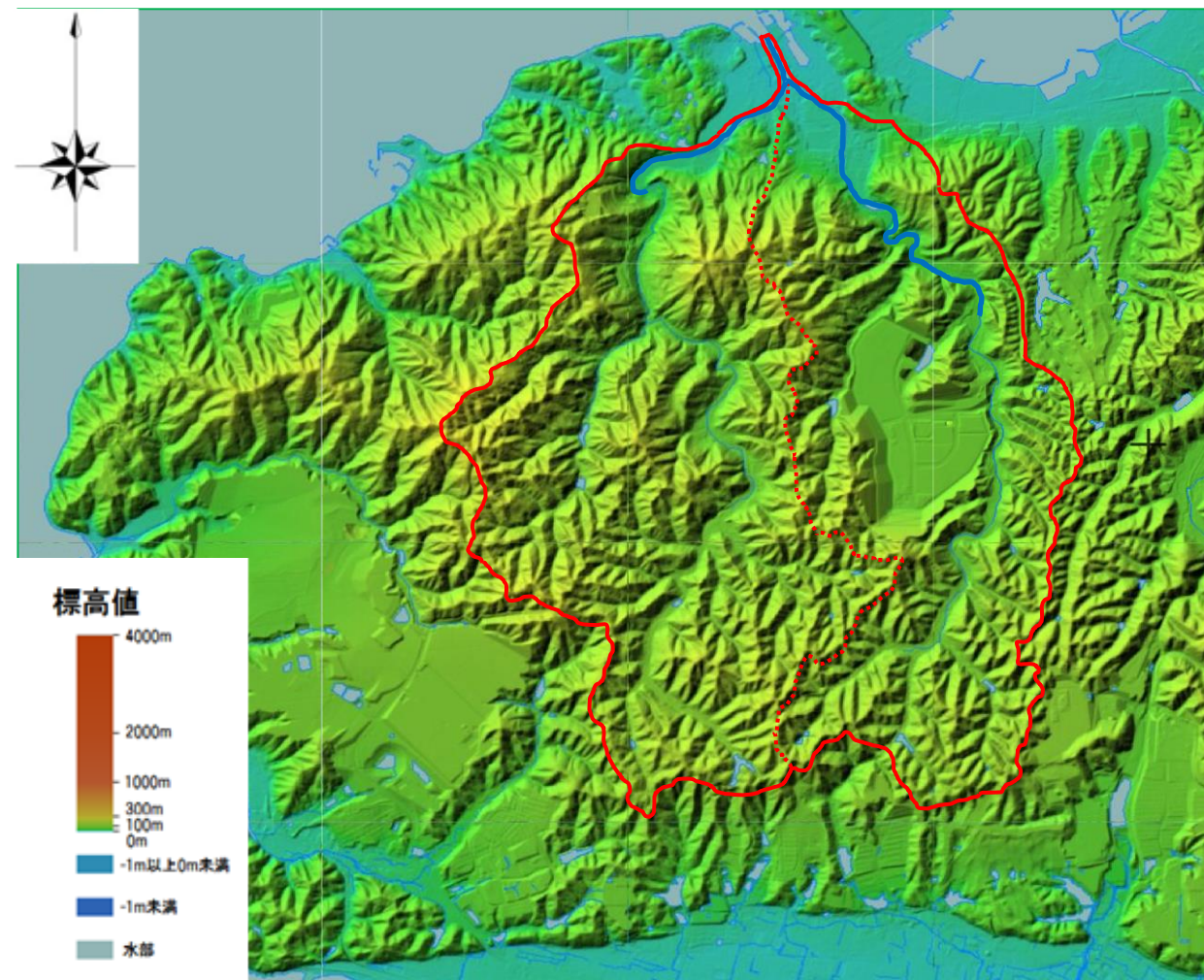


図-1.3 東川流域周辺の地形図

出典：国土地理院

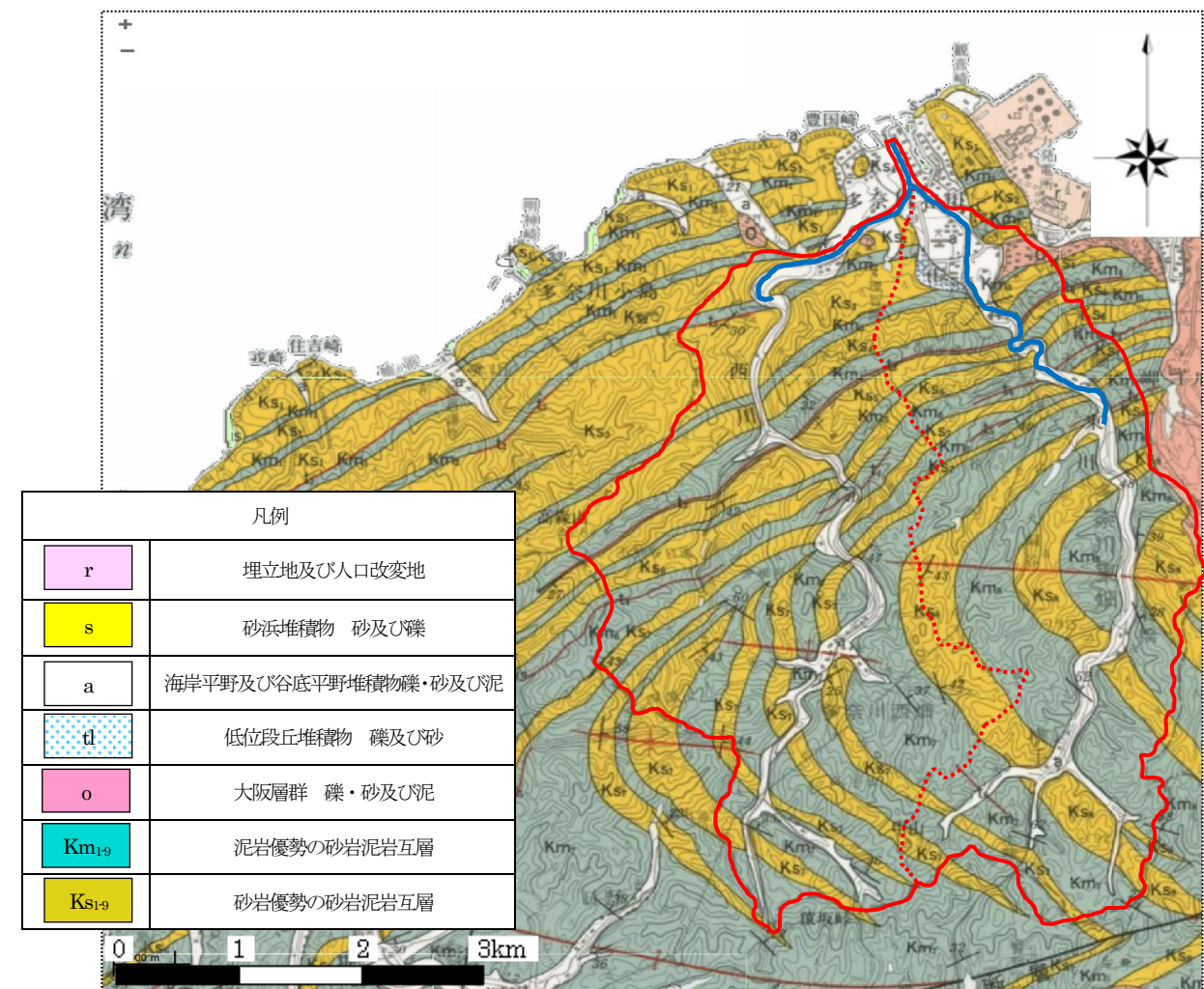


図-1.4 流域の地質図

出典：地質図Navi (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 / 地質調査総合センター)

¹⁾ 和泉層群：中央構造線の北側にそって細長く分布している中生代白亜紀後期の地層。愛媛県松山市の南西から東へ淡路島南部の輪鶴羽山地を通り、和泉山脈に至るまで、最大15kmの幅で東西300kmにもわたって続いている地層のこと。

2) 気候

気候は、温暖で降水量の少ない瀬戸内海式気候に属し、降水量が四季を通じて比較的少なくなっています。気温は温暖で夏季の海陸風が特に顕著となっています。

流域に近接する和歌山気象台における昭和56年から平成22年までの年平均気温は16.8℃、年平均降水量は約1,320mmとなっています。降水量を月別で見ると、梅雨期の6月が約190mm、台風期の9月が約180mmと多くなっています(図-1.5 参照)。

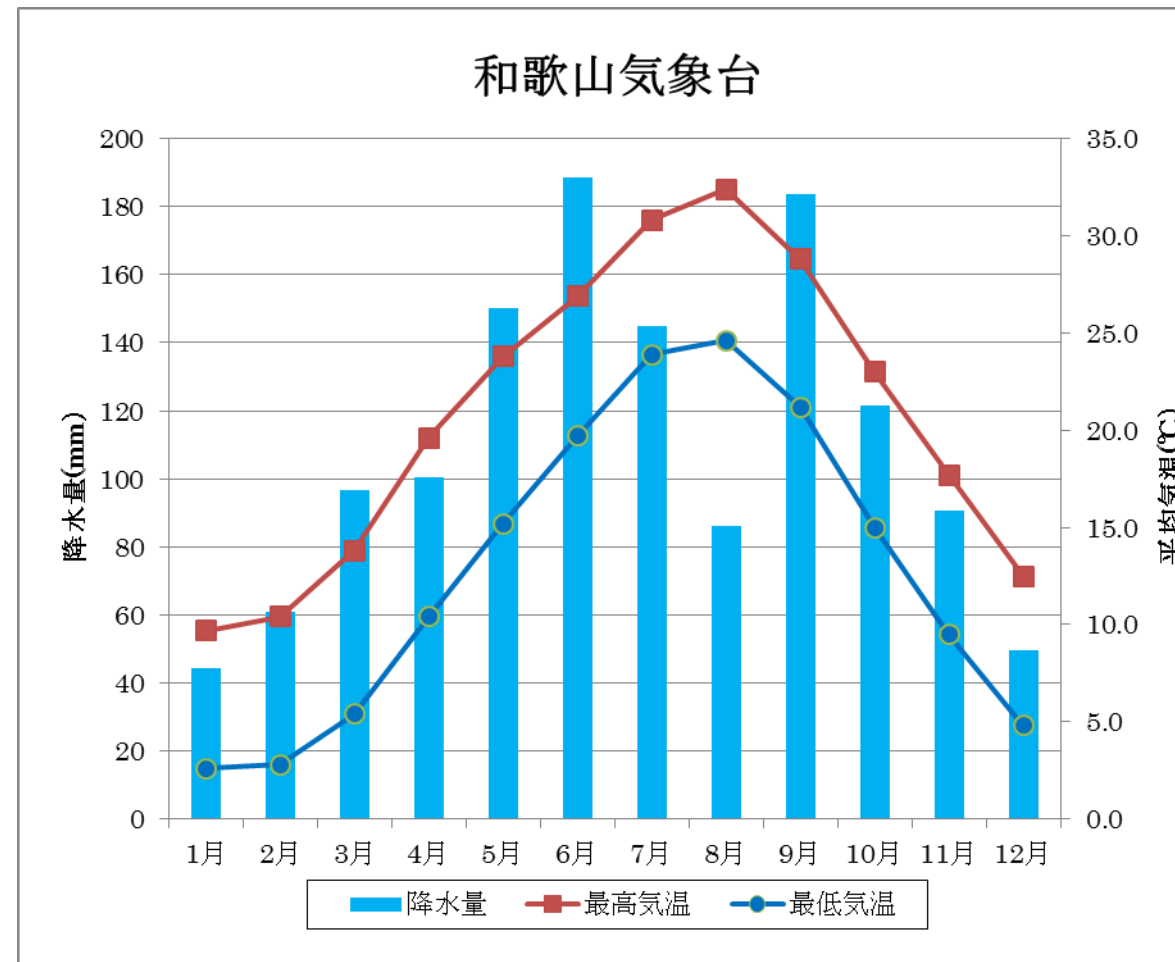


図-1.5 和歌山気象台の気温と降水量（平年値）

出典：気象庁HP

3) 自然環境

①魚類

東川水系では、魚類は5科12種確認されており、東川、西川ともにオイカワ、カワムツ、カワヨシノボリ等の緩流域を好む種が多く確認されています。さらに、大阪府レッドリスト2014で絶滅危惧Ⅱ類に指定されているミナミメダカも確認されています。また、西川では流れの緩やかな中流域で見られ回遊性のあるゴクラクハゼやシマヨシノボリ等が確認されています(表-1.2参照)。

表-1.2 東川水系で確認された魚類

No.	目名	科名	和名	学名	回遊性	東川		西川		重要種		外来種 外来生物法
						石砂坪橋		中橋		環境省 R L	大阪府 R L	
						H21	H26	H21	H26			
1	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>				○		ⅠB類	絶危Ⅱ	
2	コイ	コイ	ギンブナ	<i>Carassius auratus langsdorfii</i>				○				
-			フナ属	<i>Carassius</i>					○			
3			オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>		○	○	○	○			
4			カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>		○	○	○	○			
5			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>				○				
6		ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>				○		不足	絶危Ⅱ	
7	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>			○		○	Ⅱ類	絶危Ⅱ	
8	スズキ	ドンコ	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>				○	○			
9			ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius giurinus</i>	○				○			
10			カワヨシノボリ	<i>R. flumineus</i>		○	○	○	○			
11			シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp. CB</i>	○				○		不足	
12			旧トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i>	○	○						

凡例	
	重要種

平成21年調査：二級河川春木川外河川水辺環境調査業務委託
 平成26年調査：二級河川津田川外 河川水辺環境調査委託 (H26)



図-1.6 確認された主な魚類

出典：二級河川津田川外 河川水辺環境調査委託 (H26)

②底生生物

底生生物は29科63種が確認されており、環境省の第4次レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。ヒラテテナガエビのほか、ゲンジボタルやカワニナが確認されています。

表-1.3 東川水系で確認された底生生物

No.	綱名	目名	科名	和名	回遊性	調査地区		重要種		(※)外来種
						東東岸	東西岸	環境省	大阪府	
1	渦虫綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ		○	○			
2	有針綱	ハリヒモムシ目	マミズヒモムシ科	Prostoma sp.		○	○			
3	腹足綱	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	イシマキガイ		○	○			
4	腹足綱	盤足目	カワニナ科	カワニナ		○	○			
5	ミミズ綱	オヨギミズ目	オヨギミズ科	エラミミズ			○			
6	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミズ科	エラミミズ			○			
7	ミミズ綱	イトミミズ目		ナミミズミズ			○			
8	ミミズ綱	イトミミズ目		ミズミズ科		○	○			
8	ヒル綱	吻蛭目	グロシフォニ科	グロシフォニ科			○			
9	ヒル綱	無吻蛭目	イシビル科	ナミイシビル		○	○			
9	ヒル綱	無吻蛭目	イシビル科	イシビル科		○	○			
10	軟甲綱	ワラジムシ目	ミズムシ科	ミズムシ		○	○			
11	軟甲綱	エビ目	ヌマエビ科	ミノレヌマエビ	○		○			
12	軟甲綱	エビ目		Neocaridina sp.	○	○	○			
13	軟甲綱	エビ目		ヌマエビ	○		○			
14	軟甲綱	エビ目	テナガエビ科	ミナミテナガエビ	○	○				
15	軟甲綱	エビ目		ヒラテテナガエビ	○		○			準絶
16	軟甲綱	エビ目		テナガエビ	○		○			
17	軟甲綱	エビ目	モクズガニ科	モクズガニ	○		○			
18	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	Ameletus sp.			○			
19	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	ヨシノコカゲロウ		○	○			
20	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		シロハラコカゲロウ			○			
21	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		Cloeon sp.			○			
22	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		ウスイロフトヒゲコカゲロウ		○	○			
23	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		ウデマガリコカゲロウ			○			
24	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒラタカゲロウ科	クロタニガワカゲロウ		○				
25	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		シロタニガワカゲロウ		○	○			
26	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		ナミヒラタカゲロウ		○				
27	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		Epeorus sp.		○				
27	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	トビイロカゲロウ科	Paraleptophlebia sp.		○				
28	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		オオトゲエラカゲロウ			○			
29	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ			○			
30	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		モンカゲロウ			○			

No.	綱名	目名	科名	和名	回遊性	調査地区		重要種		(※)外来種
						東東岸	東西岸	環境省	大阪府	
31	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	オオクママダラカゲロウ		○	○			
32	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		Cincticostella sp.		○	○			
32	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		シリナガマダラカゲロウ			○			
33	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		アカマダラカゲロウ		○				
34	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	カワトンボ科	アサヒナカワトンボ			○			
35	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	Davidius sp.			○			
36	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)		コオニヤンマ			○			
37	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	クロカワゲラ科	クロカワゲラ科		○				
38	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	ナミコガタシマトビケラ		○	○			
39	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	カワトビケラ科	Dolophilodes sp. DB		○				
40	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)		Dolophilodes sp. DC		○				
41	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	Tipula sp.		○				
42	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Brillia sp.		○				
43	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		ケバネオオヤマユスリカ			○			
44	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Conchapelopia sp.		○	○			
45	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Corynoneura sp.		○				
46	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Cricotopus sp.		○				
47	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		フタユスリカ		○				
48	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Eukiefferiella sp.		○				
49	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Micropsectra sp.			○			
50	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Microtendipes sp.		○	○			
51	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Orthocladus sp.		○				
52	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Paratendipes sp.			○			
53	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Polypedilum sp.			○			
54	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Rheocricotopus sp.		○				
55	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		アキツキユスリカ			○			
56	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Sympotthastia sp.		○				
57	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tanytarsus sp.			○			
58	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Thienemanniella sp.			○			
59	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tvetenia sp.		○				
60	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ブユ科	Simulium sp.		○	○			
61	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	イブシアシナガドロムシ		○				
61	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)		ヒメドロムシ科		○	○			
62	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒラタドロムシ科	クシヒゲマルヒラタドロムシ		○	○			
63	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ホタル科	ゲンジボタル		○				



図-1.7 確認された主な底生生物
出典：二級河川津田川外 河川水辺環境調査委託 (H26)

(※)外来種

- 特定：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」指定の「特定外来生物」
- 要注意：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」指定の「要注意外来生物」
- 国外：おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物（国外外来種）

調査：二級河川津田川外 河川水辺環境調査委託 (H26)

③植生

植生は山林が大部分を占めていますが、自然植生は少なく、シイ・カシ二次林が優先しています。また、河川沿いには水田雑草群落、谷筋には竹林やスギ・ヒノキ・サワラ植林、海岸近くにはシイ・カシ二次林が見られます（図-1.8 参照）。

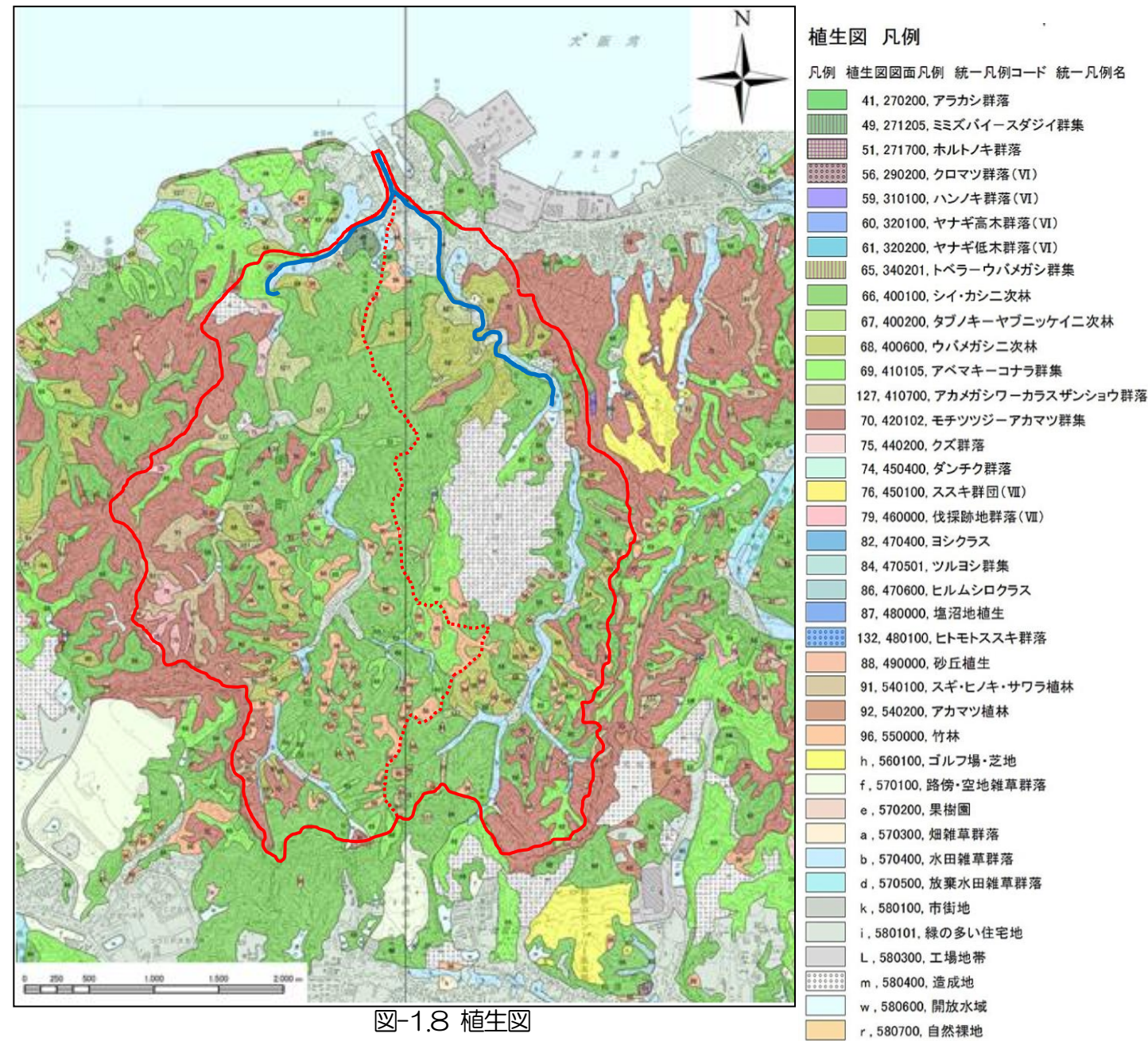


図-1.8 植生図

出典：自然環境保全基礎調査 植生調査
環境省 自然環境局 生物多様性センター（平成21年調査）



シイ



カシ



スギ・ヒノキ

図-1.9 確認された主な植生

出典：六甲山系植生電子図鑑

④鳥類

鳥類は、中上流域にカワセミが見られるほか、大阪府レッドリスト2014で準絶滅危惧に指定されているオオタカ、フクロウ、環境省の第4次レッドリストで準絶滅危惧に指定されているハチクマ、ミサゴも確認されています（表-1.4 参照）。

表-1.4 東川水系で確認された鳥類

目名	科名	種名 (※)	学名	重要種	
				環境省 レッドリスト	大阪府 レッドリスト
コウノトリ目	サギ科	ミゾゴイ	<i>Gorsakius goisagi</i>		
タカ目	タカ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	準絶滅危惧	
タカ目	タカ科	ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類
タカ目	タカ科	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧
タカ目	タカ科	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	準絶滅危惧	
タカ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
チドリ目	カモメ科	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	絶滅危惧Ⅱ類	
フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>		準絶滅危惧
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>		

※出典：岬町多奈川地区多目的公園計画に係る土砂採取事業に関する環境影響評価準備書
大阪府土地開発公社・岬町多奈川地区整備促進協議会 平成10年12月



ミサゴ



ハチクマ



オオタカ



ハイタカ



ハヤブサ



コアジサシ



フクロウ



カワセミ

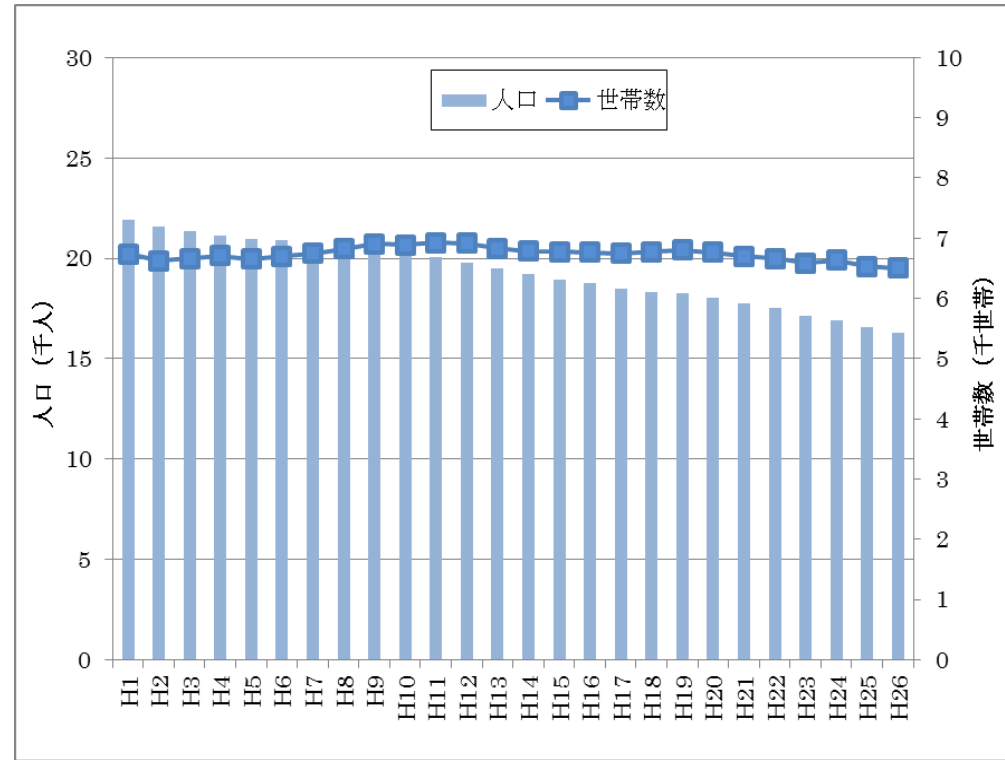
図-1.10 確認された主な鳥類

出典：H16 文部科学省・教育情報共有化促進 モデル事業尾道市情報教育研究会「デジタル図鑑」

(2) 社会環境特性

1) 人口

流域のある岬町の人口は、平成26年10月1日時点で約1.6万人、世帯数は、平成26年10月1日の時点で約0.6万世帯となっています。人口は、減少傾向となっています(図-1.11参照)。



※各年10月1日現在。

図-1-11 岬町の人口の推移

出典：大阪府統計年鑑

「市町村別各年10月1日現在人口」

「市町村別各年10月1日現在世帯数」

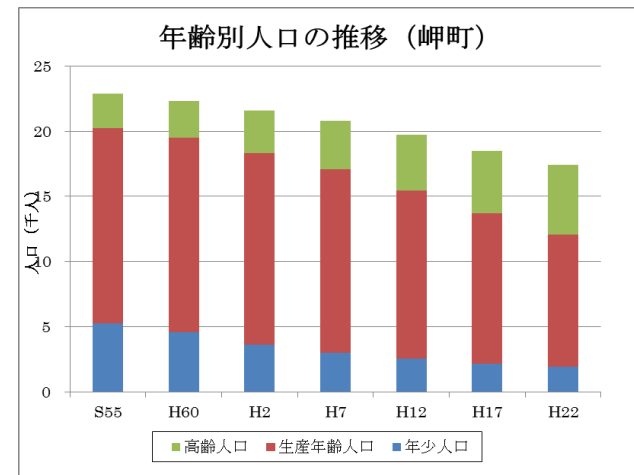


図-1.12 年齢別人口の推移

出典：年齢別人口の推移(国勢調査)

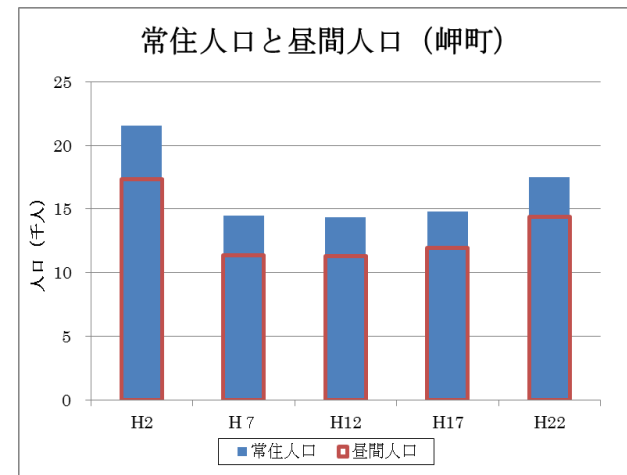


図-1.13 常住人口と昼間人口

出典：常住人口と昼間人口(国勢調査)

2) 産業

平成22年国勢調査時点の就業者人口は、卸売り、飲食店、サービス業等の第3次産業が74.6%、製造業等の第2次産業が22.7%を占め、農業等の1次産業は2.7%となっています(図-1.14参照)。

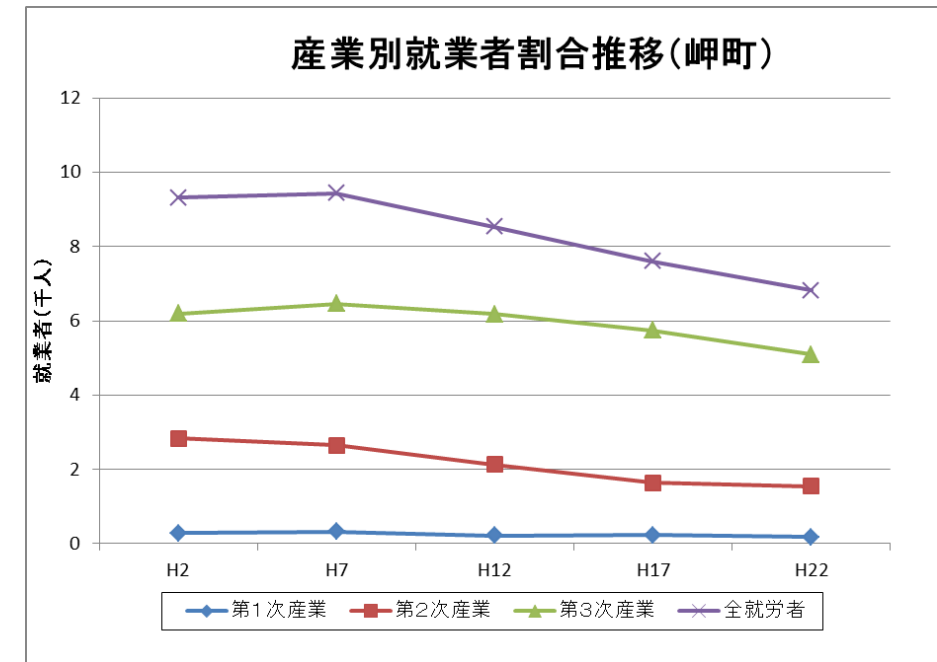


図-1.14 産業別就業者割合推移

出典：大阪府統計年鑑

「市町村、労働力状態、産業(大分類)別15歳以上就業者数」

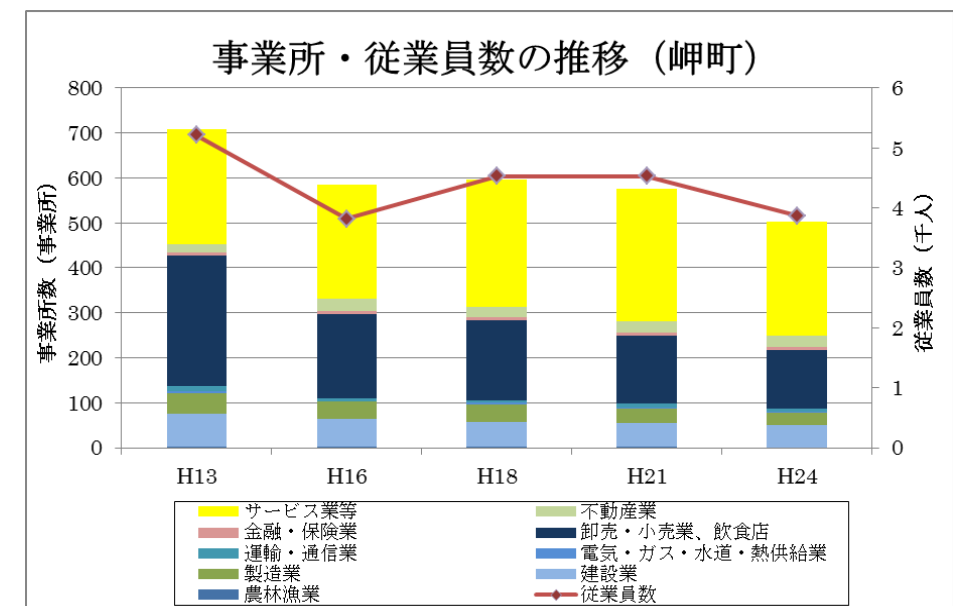
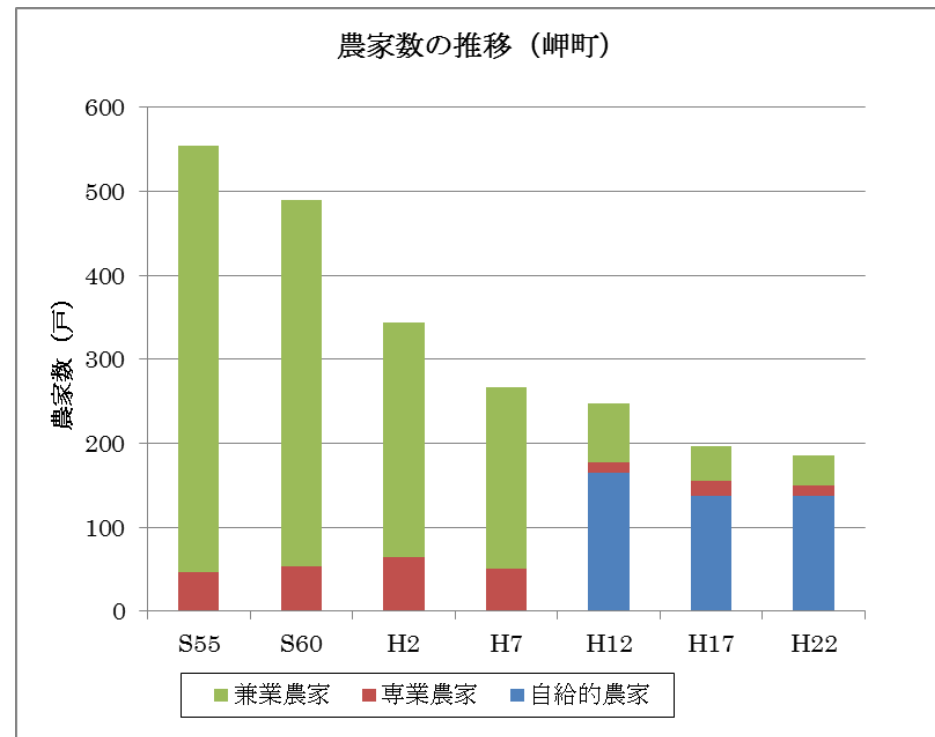


図-1.15 事業所・従業員数の推移

出典：総務省統計局「事業所・企業統計調査」

①農業

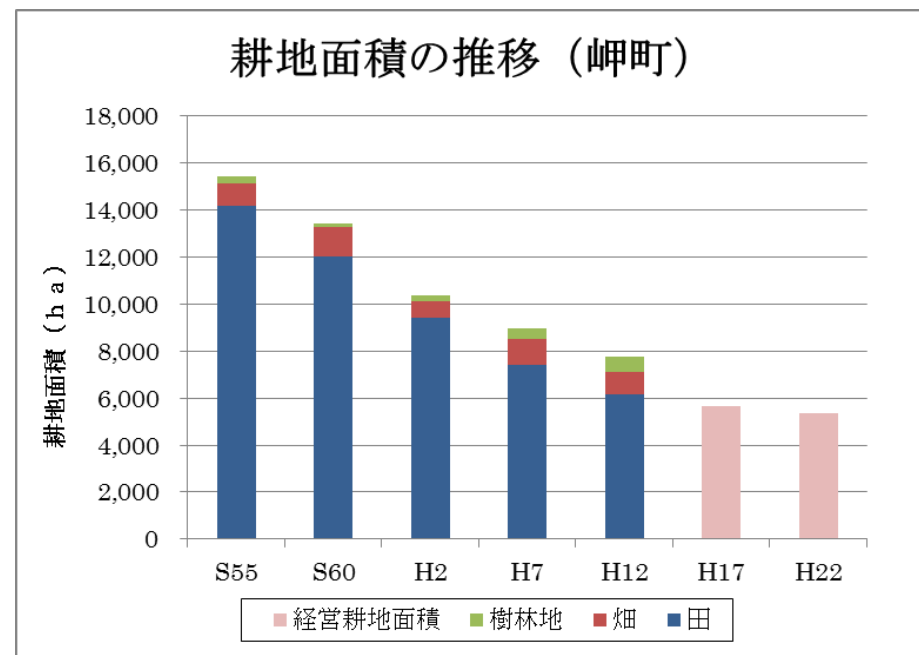
岬町の農業は、多くが兼業農家で、農家数、耕地面積ともに近年、減少傾向にあります。農作物の生産の多くは米であり、しいたけが特産品となっています。



※「兼業農家」：世帯員のなかに兼業従事者が1人以上いる農家をいう。
 ※「自給的農家」：経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が年間50万円未満の農家をいう。

図-1.16 農家数の推移

出典：大阪府統計年鑑「市町村別、専業兼業別農家数及び経営耕地面積」



※「経営耕地面積」：農林業経営体が経営している耕地(田、樹園地、畑)の面積をいう。

図-1.17 耕地面積の推移

出典：大阪府統計年鑑「市町村別、専業兼業別農家数及び経営耕地面積」

②漁業

河口の北側には、深日漁港があり、主にイワシ、コノシロ、イカナゴなどの漁獲が見られます。また、昆布・わかめが特産品となっています。

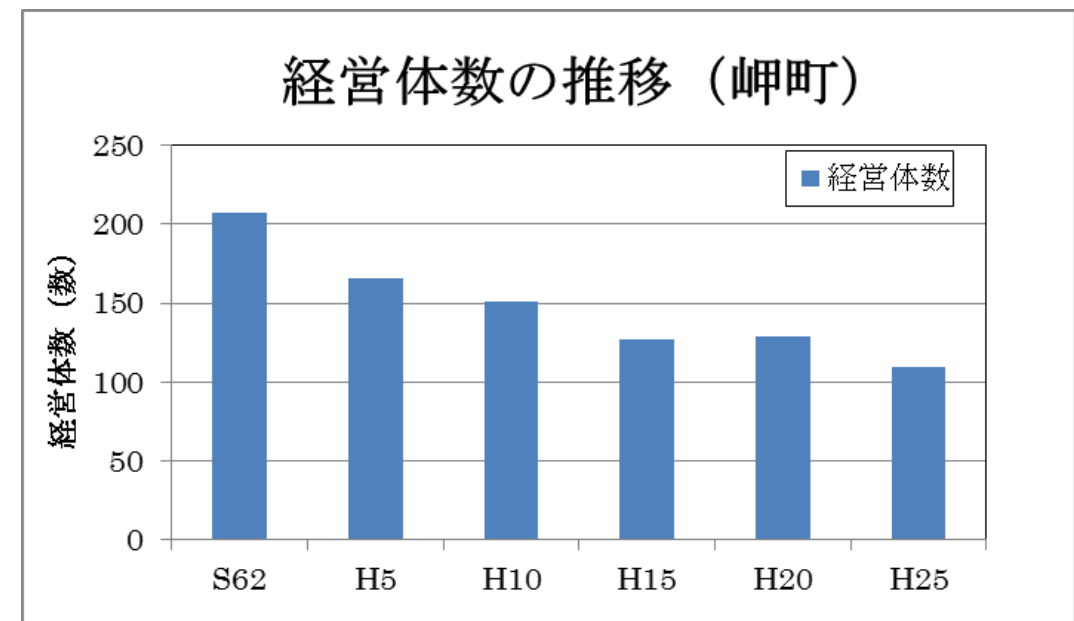


図-1.18 経営体数の推移

出典：農林水産省「漁業センサス」

③工業

近年では、事業者数、従業員数ともに大きな増減はありません。

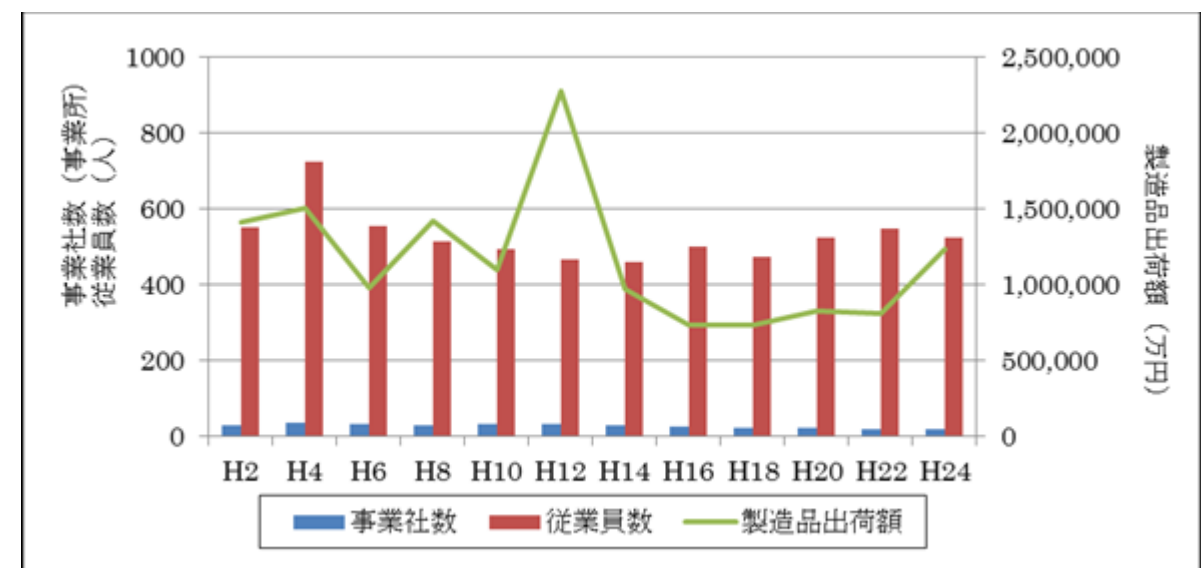


図-1.19 工業関連の事業者数、従業員数及び出荷額

出典：経済産業省「工業統計調査」

3) 土地利用

岬町の土地利用は、平成26年1月時点では、宅地が約21%、農地(田及び畑)が約14%、山林が約53%、その他が約12%となっています。流域内の土地利用としては、下流域は市街地が占め、上中流域は山地となっており、豊かな自然が残されています(図-1.20 参照)。

平成6年から平成26年での土地利用の変遷は、ほとんど見られません(表-1.5 参照)。

表-1.5 地目別面積表

地目	平成6年		平成26年	
	地積(m ²)	%	地積(m ²)	%
宅地	2,827,319	20.7%	3,042,677	21.0%
田	1,865,886	13.7%	1,589,796	11.0%
畑	563,881	4.1%	511,732	3.0%
山林	7,639,608	55.9%	7,592,501	53.0%
原野	194,746	1.4%	197,759	1.4%
雑種地	382,028	2.8%	1,358,375	9.6%
その他	182,112	1.3%	179,045	1.0%
合計	13,655,580	100.0%	14,471,885	100.0%

※各年の1月時点

出典：大阪府統計年鑑「市町村別 地目別民有地」

土地利用図	記号
一般市街地	赤い点
商業業務地	赤い点
官公署	紫の点
工場地	青い点
集落地	オレンジの点
公園・緑地	緑色の点
運動場遊園地	緑色の点
学校(土地利用図)	緑色の点
社寺敷地・公開庭園	茶色の点
墓地	黒い点
田・休耕地	黄色い点
畑	黄色い点
山林	茶色の点
原野・牧野	赤い点
水面	水色の点
低湿地・荒蕪地	灰色の点
公共施設	赤い点
道路・鉄軌道敷	灰色の点
その他	オレンジの点

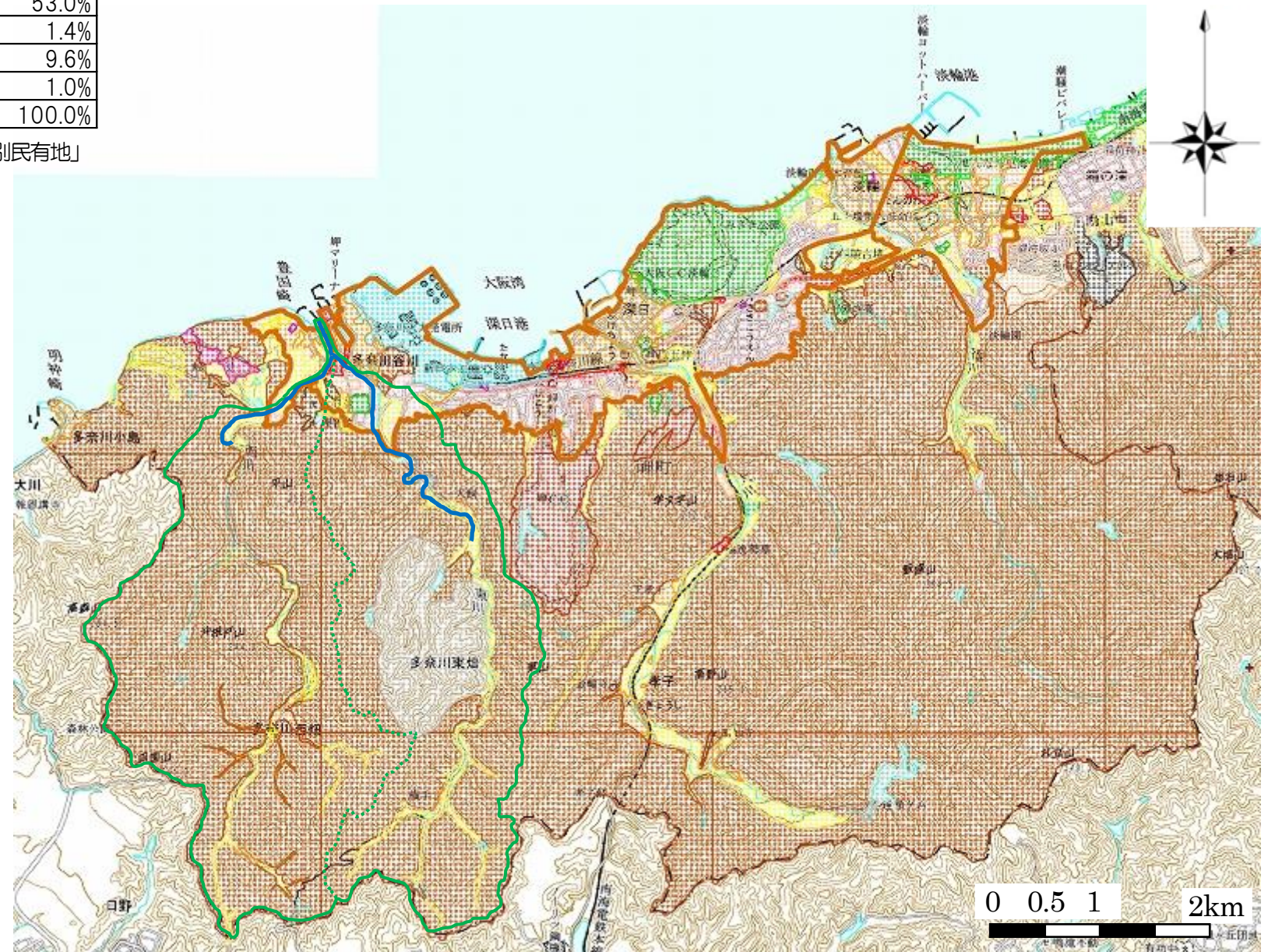


図-1.20 岬町の土地利用図(H26.1時点)

出典：大阪府 地図情報システム

4) 歴史・文化・観光

東川水系における流域の歴史は古く、852年に創建したものと伝えられる国指定重要文化財を保有する興善寺^{こうぜんじ}、733年に開基したと伝えられている理智院^{りちいん}ならびに産土神社^{うぶすな}があります。興善寺の横には、大阪府でも珍しい貴重な植物を集めた自然保護園があり、森の小径として散策することができます。また、上流域には、「公共と民間が協働で創造する新しい多目的公園」を基本コンセプトとした岬町多奈川地区多目的公園（いきいきパークみさき）、河口部には、大阪府環境農林水産研究所の水産技術センターで大阪湾に生息している魚等の見学を行うことができ、歴史ある地域にあつて、近年の余暇活用場の資源を有しています。



図-1.21 文化財等位置図

表-1.6 流域内指定文化財一覧表

番号	文化財名称	指定等	種別	所在地	所有者
1	木造 大日如来坐像	国重文	彫刻	岬町多奈川谷川 1460	興善寺
1	木造 釈迦如来坐像	国重文	〃	〃	〃
1	木造 薬師如来坐像	国重文	〃	〃	〃



興善寺

出典：大阪府HP



いきいきパークみさき



産土神社

出典：大阪府立環境農林水産総合研究所HP



水産技術センター



理智院

出典：岬町観光協会HP



自然保護園

図-1.22 東川流域の歴史、文化、観光施設

5) 交通

流域内における交通は、大阪府と和歌山県を結ぶ形で道路が整備されています。道路は、流域の北端を府道 65 号（主要地方道岬加太港線）が東西に貫き、東川沿いに府道 751 号（府道木ノ本岬線）が通っています。また、岬町役場を起点に東川沿い、西川沿いにコミュニティバスが走行しています。

鉄道については、流域内にはありませんが、下流域の東側には南海多奈川線が終着駅の多奈川駅まで通っています(図-1.23 参照)。



図-1.23 岬町の交通網図



主要地方道岬加太港線（府道 65 号）



府道木ノ本岬線（府道 751 号）



岬町コミュニティバス



南海多奈川線

図-1.24 東川流域の主要交通

3. 河川の特徴

(1) 東川 (図-1.25、26 参照)

東川は、河口～一軒屋橋^{いっけんや}の区間が高潮対策区間に指定されています。また、河口～平野橋^{ひらの}までの区間で市街地、平野橋～石砂坪橋^{いしゃつぼ}までの区間で狭い山あいで作られた田畑、石砂坪橋～7号無名橋上流(府管理区間上流端)までの区間で山間部を流下しています。河川の横断形状は単断面構造となっており、現況河床勾配は、1/140～1/90程度の急勾配となっています。河床材料は、砂や砂利であり、上流部には一部露岩している箇所も見られます。

【河口～一軒屋橋(高潮対策区間)】

河川は、築堤区間となっており、河口から300mの地点で東川と西川が合流しています。護岸形式は、コンクリートブロック積護岸やコンクリート擁壁護岸で整備されており、コンクリート擁壁護岸と護岸に設置されたパラペットが防潮堤の役割を担っています。川幅は河口～東川・西川合流点で30～50m、合流点～一軒屋橋で15～20mであり、河道内に発達した砂州が見られます。

【一軒屋橋～平野橋】

河川は、主に築堤区間となっています。護岸形式は、コンクリート擁壁、コンクリートブロック積、ブロック張り、石積となっており、川幅は約15～20mであり、河道内は瀬や淵が形成され、植生が繁茂しています。

【平野橋～7号無名橋上流(府管理区間上流端)】

河川は、主に掘込河道となっています。護岸形式は、コンクリート擁壁、コンクリートブロック積、石積となっており、一部自然護岸の箇所も残っています。川幅は約5～20mであり、河道内は瀬や淵が形成され、植生が繁茂しています。

(2) 西川 (図-1.27 参照)

西川は、東川合流点～恒屋橋^{こうや}までの区間が高潮対策区間に指定されています。また、東川合流点～極楽橋^{ごくらく}までの区間では市街地、極楽橋～五本松橋^{ごほんまつ}(府管理区間上流端)までの区間は主に農地を流下しています。河川の横断形状は単断面構造となっており、現況河床勾配は、西川が1/145～1/60程度の急勾配となっています。河床材料は、砂や砂利であり、上流部には一部露岩している箇所も見られます。

また、主に東川合流点～楠木橋^{くすのき}の区間では主に築堤区間、楠木橋～府管理区間上流端の区間では主に掘込区間となっており、また、河道は、コンクリートブロック積護岸が主体で、川幅は約5～20mであり、河道内は瀬や淵が形成され、植物が繁茂しています。

東川
【河口～石砂坪橋】

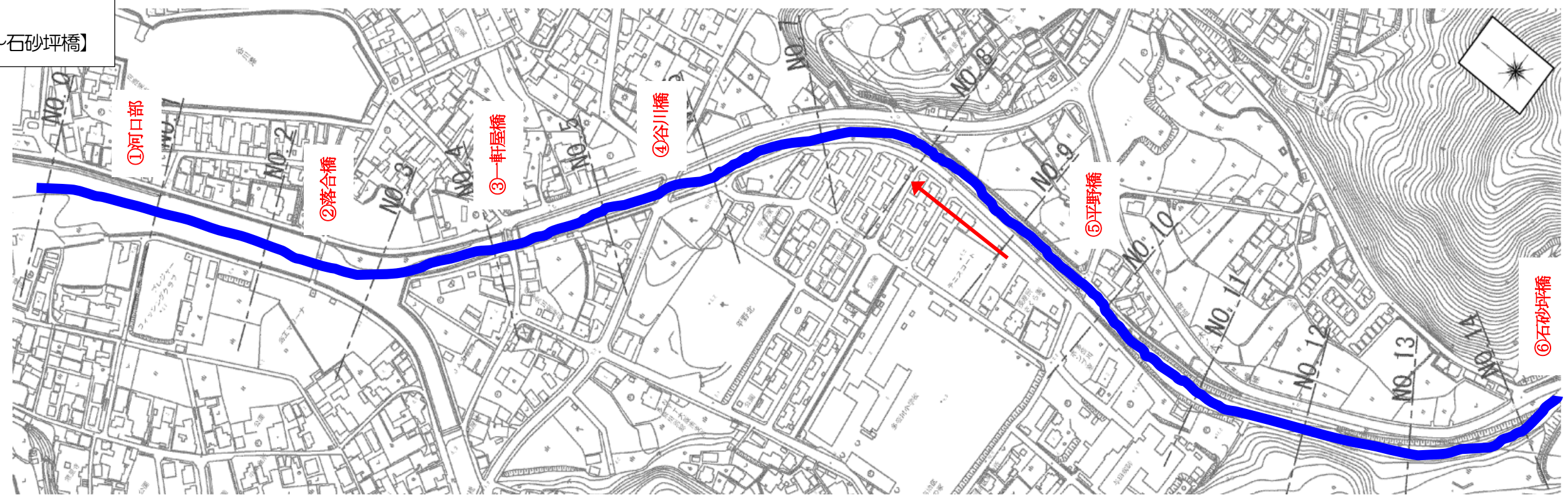


図-1.25(1) 東川の現状



図-1.25(2) 東川の現状

東川
【石砂坪橋～7号無名橋上流】

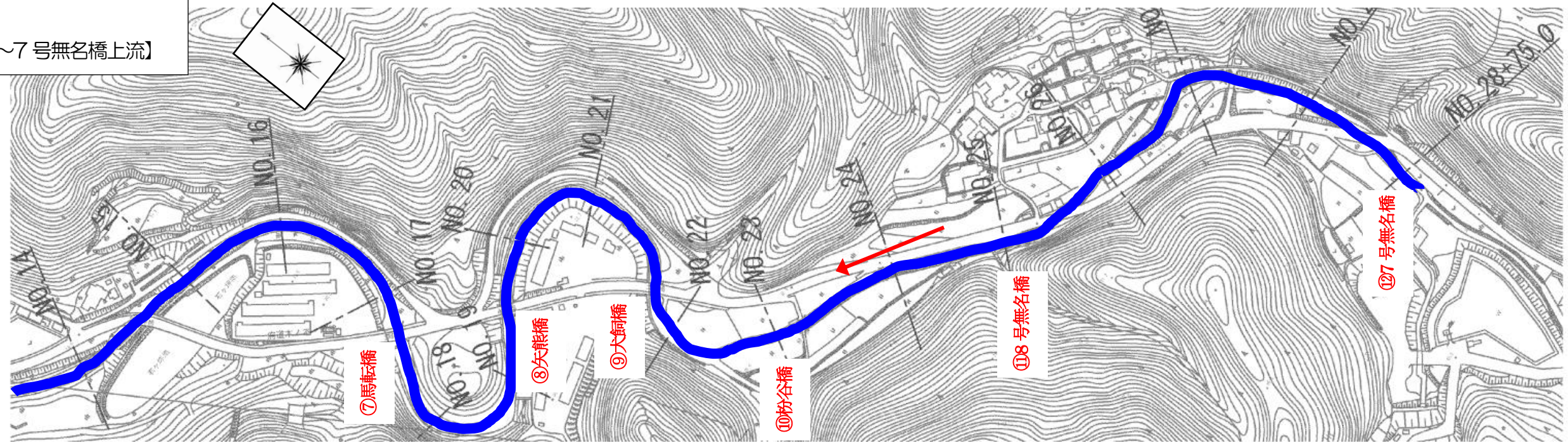


図-1.26(1) 東川の現状



図-1.26(2) 東川の現状

西川
【合流点～五本松橋】

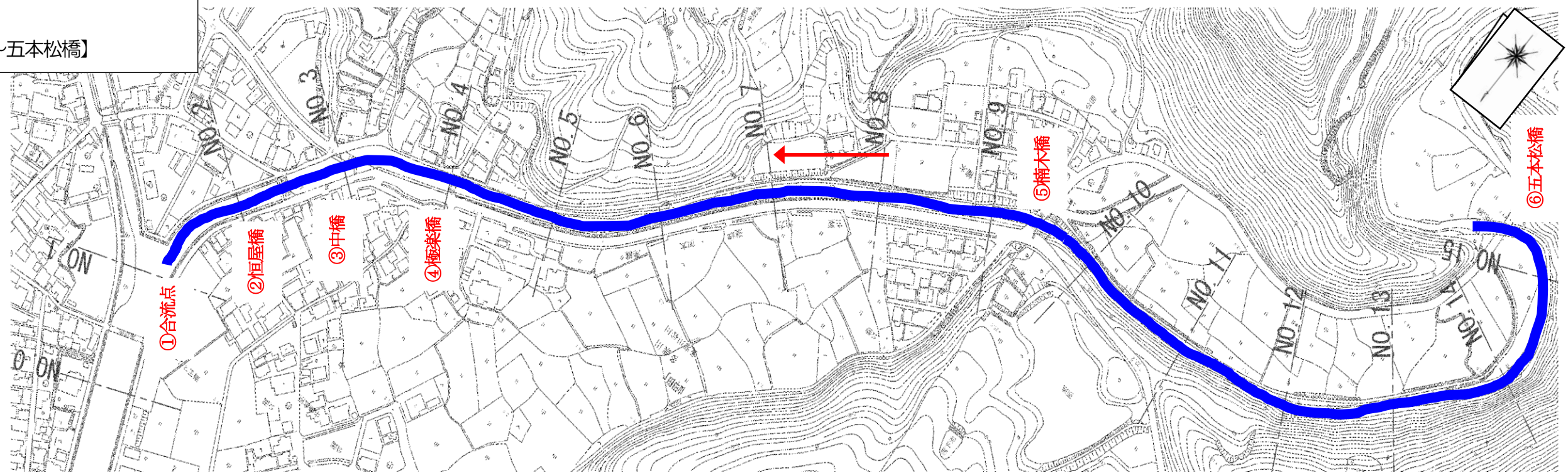


図-1.27(1) 西川の現状

①合流点



②恒屋橋下流



②中橋下流



③極楽橋下流



⑤楠木橋下流



⑥五本松橋下流



図-1.27(2) 西川の現状

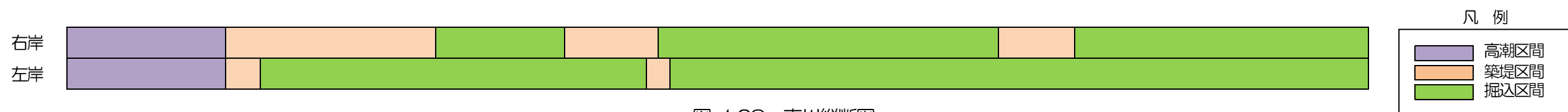
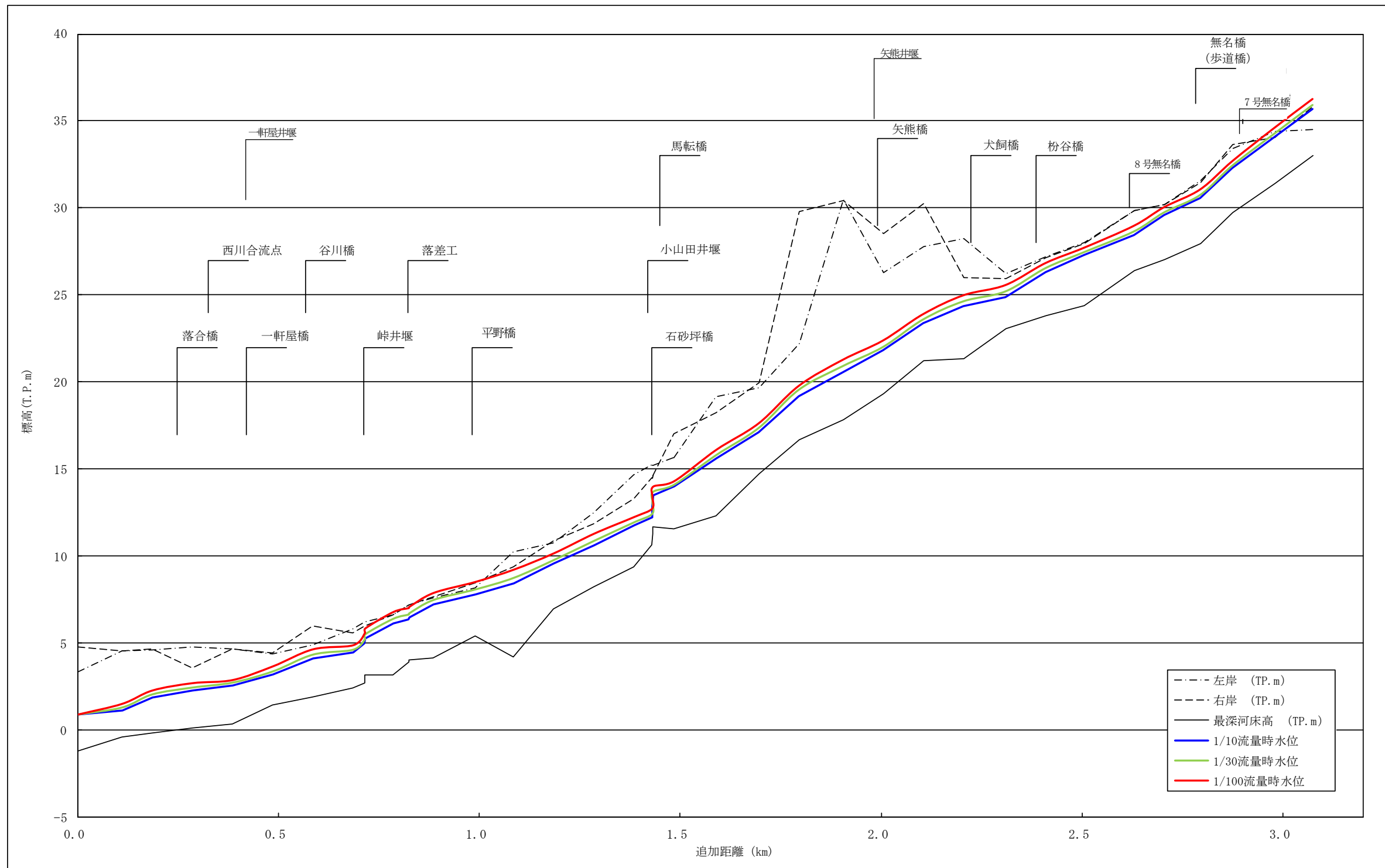


図-1.28 東川縦断面図

出典：縦断面図 二級河川西川外河川氾濫解析検討業務委託（平成23年度）
 河川形状 二級河川東川外 維持管理計画検討委託（平成26年度）

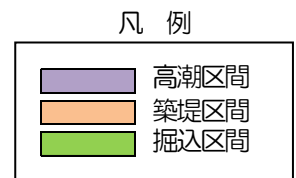
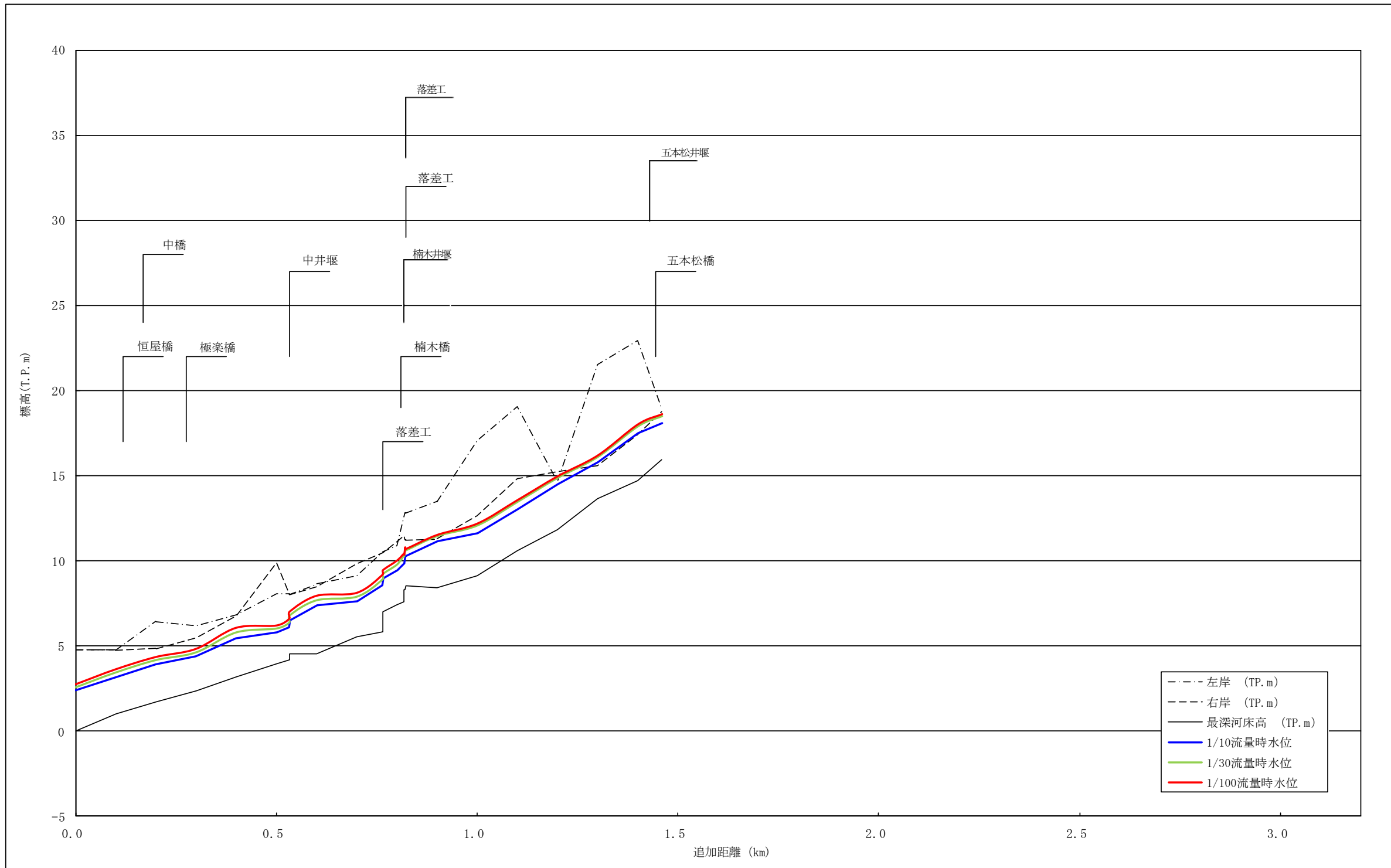


図-1.29 西川縦断面図

出典：縦断面図 二級河川西川外河川氾濫解析検討業務委託（平成23年度）
 河川形状 二級河川東川外 維持管理計画検討委託（平成26年度）